

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3159595号
(U3159595)

(45) 発行日 平成22年5月27日 (2010. 5. 27)

(24) 登録日 平成22年4月28日 (2010. 4. 28)

(51) Int.Cl.

A 4 7 C 7/54 (2006.01)

F 1

A 4 7 C 7/54

E

評価書の請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 13 頁)

(21) 出願番号 実願2010-1428 (U2010-1428)
(22) 出願日 平成22年3月6日 (2010. 3. 6)(73) 実用新案権者 502101559
蔡 博全
台湾台南縣仁德鄉中生村中州 1 4 4 號
(74) 代理人 100087918
弁理士 久保田 耕平
(72) 考案者 蔡博全
台湾台南縣仁德鄉中生村中州 1 4 4 號

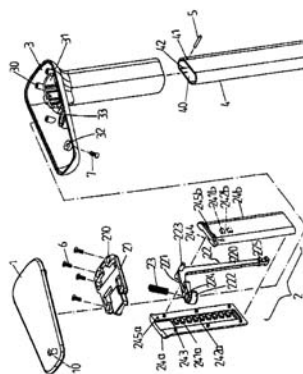
(54) 【考案の名称】 椅子肘掛けの昇降構造

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 椅子肘掛けの肘掛け上面板の上下移動が可能な椅子肘掛けの昇降構造を提供する。

【解決手段】 係止棒 2 2 の押圧部 2 2 2 を押圧すると、係止棒 2 2 の底端に設けてある係止縁 2 2 5 が、左右被覆体 2 4 a , 2 4 b に設置された係止溝 2 4 2 a , 2 4 2 b から脱離し、肘掛けの位置が上下に移動し、押圧部 2 2 2 を離すと、係止縁 2 2 5 が、再び係止溝 2 4 2 a , 2 4 2 b に係止されて、肘掛けの位置が調整された位置に固定される。

【選択図】 図 2



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

一側の前後に、それぞれ対応するピン孔が形成されて、昇降構造が貫設され、適当な位置に螺旋溝が形成された肘掛け上面板と、昇降構造と、頂部に昇降構造の結合体をロックするための螺旋溝が形成され、中央に肘掛けフレームが貫設され、他側に、肘掛け上面板をロックするための貫通孔が形成されたスリーブと、肘掛けフレームとからなる椅子肘掛けの昇降構造であって、

昇降構造が、結合体、係止棒、弾性素子及び左右被覆体を有し、結合体においてその頂部の適当な位置に若干の貫通孔が形成され、その底面の適当な位置に係止棒の頂部が嵌入する収納溝が形成され、係止棒が形状の主体を有し、主体の頂面が円弧面を形成し、上記円弧面の一端に押圧部を設けてあり、他端に棒状部があり、押圧部の頂面の中心に弾性素子が挿入されるための円状溝が設けられてあり、主体の底端に係止縁が形成されてあり、

左右被覆体が二つの互いに対応する対応体からなり、上記左右被覆体の平面側において適当な位置に、それぞれ若干の凸縁が形成され、前記凸縁の間隔を利用して係止溝が形成され、左被覆体の平面の両側に、それぞれ若干の円形棒が設置され、右被覆体の平面の両側において、左被覆体に設置された円形棒に対応する位置に若干の円状溝が設置され、左右被覆体の一側において、適当な位置に、それぞれ対応するピン孔が形成され、係止棒の底端にある係止縁の両側が、それぞれ、左右被覆体のその一つの係止溝に合わせて、左被覆体の円形棒が右被覆体の円状溝に係合し、係止棒の押圧部の円状溝に弾性素子が収納された後、係止棒の頂部が結合体の底部に設けてある収納溝内に位置するようになり、

スリーブの中空部の一側において、適当な位置に昇降構造の係止棒の押圧部が貫設される受け入れ孔が形成され、

肘掛けフレームがスリーブに貫設された後、昇降構造が肘掛けフレームの中空部に位置し、左右被覆体の対応するピン孔と肘掛けフレームに穿設されたピン孔とが一致してから、ピンを挿設し、昇降構造の左右被覆体が肘掛けフレームに結合され、昇降構造の結合体とスリーブとがロックされ、昇降構造の係止棒の押圧部がスリーブの受け入れ孔に貫設され、肘掛け上面板とスリーブとがロックされることを特徴とする椅子肘掛けの昇降構造。

【請求項 2】

押圧係止棒の押圧部において、係止棒がその棒状部を支点として所定の角度を回転すると、その底端の係止縁が左右被覆体の係止溝から脱離し、肘掛け上面板が上下に変位することができ、必要とする位置に調整してから係止棒の押圧部を解放すると、弾性素子の回復力により元の位置に戻り、同時に、係止棒がその棒状部を支点として元の位置まで回転し、これにより、その底端の係止縁が再び左右被覆体の係止溝に係止され、肘掛け上面板が上記の調整済みの位置に固定されることを特徴とする請求項 1 に記載の椅子肘掛けの昇降構造。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本考案は、椅子肘掛けに関するものであり、さらに詳しくは、スムーズに変位ができ、昇降調整と位置決めが可能な椅子肘掛けの昇降構造に関するものである。

【背景技術】

【0002】

一般の市販の椅子においては、その肘掛けの昇降構造は、歯部を有する板体が、肘掛け結合座の空間内で、摺動しながら、予め設置された係止ピンに係止することにより、肘掛けが昇降することにより位置決めを行うものである。

【0003】

従来、椅子肘掛けは、座席の両側に取り付けられ、固定されたものである。従って、座者の体形または異なる姿勢に応じて最適な肘掛け位置を提供することができなかった。

【 0 0 0 4 】

かかる状況下において、特許文献 1 によれば、座者の姿勢に応じて調整するものとして、例えば、椅子の前後方向に位置を移動調整できる椅子肘掛けが提案されている。

しかし、かかる提案は、肘掛けの前後方向への位置の移動調整のみを可能とするものであり、肘掛けの位置を上下に移動調整することはできなかった。

【特許文献 1】実用新案登録第 3 0 0 4 6 6 3 号公報

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【 0 0 0 5 】

従って、本考案の課題は、ユーザーのニーズに応じて椅子肘掛けの位置を上下方向へ移動調整可能な構造を提供する点にある。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 0 6 】

そこで、本考案者は、前記の本考案の課題を解決するために鋭意検討を重ねた結果、後述のように肘掛け上面板を支持する係止棒の押圧部を押圧すると係止棒の底端の係止縁が、左右被覆体に設けてある係止溝から脱離し、肘掛けの位置が上下に調整できる構造に着目し、かかる知見に基づいて本考案に想到した。

【 0 0 0 7 】

すなわち、本考案の主な目的は、ユーザーのニーズに応じて、肘掛け上面板の位置が、上下に調整されて、調整した位置に固定され、ユーザーの手部が、優れた支持を得られ、快適感が向上する椅子肘掛けの昇降構造を提供する点にある。

【 0 0 0 8 】

また、本考案の他の目的は、係止棒の押圧部を押圧すると、係止棒の底端に形成された係止縁が、左右被覆体に形成された係止溝から脱離し、肘掛けの位置が、上下に調整でき、係止棒の押圧部を離すと、係止棒の底端に形成された係止縁が、再び、左右被覆体に形成された係止溝に係止されて、調整された位置に固定され、使用上、非常に便利で、省力できる椅子肘掛けの昇降構造を提供する点にある。

【 0 0 0 9 】

かくして、本考案によれば、

請求項 1 において、一側の前後に、それぞれ、対応するピン孔が形成されて、昇降構造が貫設され、適当な位置に、螺旋溝が形成される肘掛け上面板と、昇降構造と、頂部に、昇降構造の結合体をロックするための螺旋溝が形成され、中央に、肘掛けフレームが貫設され、他側に、肘掛け上面板をロックするための貫通孔が形成されるスリーブと、肘掛けフレームとからなる椅子肘掛けの昇降構造であって、

昇降構造が結合体と係止棒、弾性素子及び左右被覆体を有し、結合体においてその頂部の適当な位置に若干の貫通孔が形成され、その底面の適当な位置に係止棒の頂部が突入する収納溝が形成され、係止棒が形状の主体を有し、主体の頂面が円弧面になり、上記円弧面の一端に押圧部が設けてあり、他端に棒状部があり、押圧部の頂面の中心に弾性素子が設置されるための円状溝が設けられてあり、主体の底端に係止縁があり、左右被覆体が二つの互いに対応する対応体からなり、上記左右被覆体の平面側において適当な位置に、それぞれ、若干の凸縁が形成され、前記凸縁の間隔を利用して係止溝が形成され、左被覆体の平面の両側に、それぞれ、若干の円形棒が設置され、右被覆体の平面の両側において、左被覆体に設置された円形棒に対応する位置に若干の円状溝が設置され、左右被覆体の一側において、適当な位置に、それぞれ、対応するピン孔が形成され、係止棒の底端にある係止縁の両側が、それぞれ、左右被覆体のその一つの係止溝に合わせて、左被覆体の円形棒が右被覆体の円状溝に係合し、係止棒の押圧部の円状溝に弾性素子が収納された後、係止棒の頂部が結合体の底部に設けてある収納溝内に位置するようになり、

スリーブの中空部の一側において、適当な位置に昇降構造の係止棒の押圧部が貫設される受け入れ孔が形成され、

肘掛けフレームがスリーブに貫設された後、昇降構造が肘掛けフレームの中空部に位置

10

20

30

40

50

し、左右被覆体の対応するピン孔と肘掛けフレームに形成されたピン孔とが一致してから、ピンを挿設し、昇降構造の左右被覆体が肘掛けフレームに結合され、昇降構造の結合体とスリーブとがロックされ、昇降構造の係止棒の押圧部がスリーブの受け入れ孔に貫設され、肘掛け上面板とスリーブとがロックされてなることを特徴とする椅子肘掛けの昇降構造が提供される。

【 0 0 1 0 】

請求項 2 に係る考案によれば、押圧係止棒の押圧部において、係止棒がその棒状部を支点として所定の角度を回転すると、その底端の係止縁が左右被覆体の係止溝から脱離し、肘掛け上面板が上下に変位でき、必要とする位置に調整してから係止棒の押圧部を解放すると、弾性素子の回復力により元の位置に戻る。同時に、係止棒がその棒状部を支点として元の位置まで回転し、これにより、その底端の係止縁が再び左右被覆体の係止溝に係止され、肘掛け上面板が上記の調整済みの位置に固定されることを特徴とする請求項 1 に記載の椅子肘掛けの昇降構造が提供される。

10

【考案の効果】

【 0 0 1 1 】

本考案に係る椅子肘掛けは、前記の如き構成からなるものであり、押圧部を押圧する簡便な操作により肘掛け上面板の上下方向への移動調整を容易に行うことができる。

【考案を実施するための最良の形態】

【 0 0 1 2 】

以下、図面を参照しながら、本考案の特徴や技術内容について、詳しく説明する。もっとも、それらの図面等は、参考や説明のためであり、本考案は、それらによって限定されるものではない。

20

【 0 0 1 3 】

本考案に係る椅子肘掛けの昇降構造は、図 1 乃至図 4 で示すように、少なくとも肘掛け上面板 1 と昇降構造 2、スリーブ 3 及び肘掛けフレーム 4 から構成される。

【 0 0 1 4 】

また、肘掛け上面板 1 には、適当な位置に、スリーブ 3 をロックする螺旋溝 10 を設けてある。

【 0 0 1 5 】

昇降構造 2 には、結合体 21 と係止棒 22、弾性素子 23 及び左右被覆体 24a、24b が構成要素として含有される。結合体 21 は、その頂部において、適当な位置に、若干の貫通孔 210 があり、その底面において、適当な位置に、係止棒 22 の頂部が収納される収納溝 211 を形成してある。係止棒 22 は、主体 220 を有し、主体 220 の頂面が円弧面 221 を形成し、上記円弧面 221 の一端に押圧部 222 を有し、他端に棒状部 223 を有する。

30

押圧部 222 の頂面の中心に、弾性素子 23 が嵌入する円状溝 224 を設けてある。主体 220 の底端に、断面が I 形状である係止縁 225 を設けてある。左右被覆体 24a、24b は、二つの対応体である。上記左右被覆体 24a、24b は、平面側において、適当な位置にそれぞれ、若干の凸縁 241a、241b があり、上記凸縁 241a、241b の間にそれぞれ、係止溝 242a、242b を形成してある。左被覆体 24a は、平面の両側にそれぞれ、若干の円形棒 243 が設置され、右被覆体 24b は平面の両側において、左被覆体 24a に設置された円形棒 243 に対応する位置に、若干の円状溝 244 が設置される。左右被覆体 24a、24b の一側において、適当な位置に、それぞれ対応するピン孔 245a、245b を穿設してある。係止棒 22 の底端に形成させた I 形状である係止縁 225 の両側は、それぞれ左右被覆体 24a、24b の一つの係止溝 242a、242b に係止される。また、左被覆体 24a の円形棒 243 が右被覆体 24b の円状溝 244 に嵌入し、これにより、左右被覆体 24a、24b が結合され、この時、左右被覆体 24a、24b のピン孔 245a、245b が一致する。係止棒 22 の押圧部 222 の円状溝 224 内に、弾性素子 23 が収容された後、係止棒 22 の頂部が、結合体 21 の底部にある収納溝 211 内に位置することにより、昇降構造 2 が組立てられる。

40

50

【 0 0 1 6 】

スリーブ 3 は、その頂部に、昇降構造 2 の結合体 2 1 がロックされるための螺旋溝 3 0 があり、その中心に、肘掛けフレーム 4 が貫設される中空部 3 1 が形成される。前記中空部 3 1 の一側において、適当な位置に、受け入れ孔 3 3 が穿設され、受け入れ孔 3 3 の一側に、肘掛け上面板 1 がロックされる貫通孔 3 2 が設置される。

【 0 0 1 7 】

肘掛けフレーム 4 は、組立てられた昇降構造 2 の係止棒 2 2 と左右被覆体 2 4 a、2 4 b が貫設される中空部 4 0 を有し、その一側において、前後に、対応するピン孔 4 1、4 2 が穿設される。

【 0 0 1 8 】

肘掛けフレーム 4 が、スリーブ 3 の中空部 3 1 に挿設された後、組立てられた昇降構造 2 を、肘掛けフレーム 4 の中空部 4 0 に挿設し、左右被覆体 2 4 a、2 4 b の対応するピン孔 2 4 5 a、2 4 5 b が、肘掛けフレーム 4 に設置されたピン孔 4 1、4 2 と一致するようにしてから、ピン 5 を貫設すると、昇降構造 2 の左右被覆体 2 4 a、2 4 b と肘掛けフレーム 4 とが結合される。同時に、昇降構造 2 の結合体 2 1 に設置された貫通孔 2 1 0 が、スリーブ 3 の頂部にある螺旋溝 3 0 と一致し、ネジ 6 でロックすると、昇降構造 2 の係止棒 2 2 の押圧部 2 2 2 が、スリーブ 3 にある受け入れ孔 3 3 に挿設される。更に、肘掛け上面板 1 の螺旋溝 1 0 をスリーブ 3 の貫通孔 3 2 に一致させてから、ネジ 7 でロックすると、椅子肘掛けの昇降構造が構成する。この時、昇降構造 2 の係止棒 2 2 の底端にある係止縁 2 2 5 の両側が、それぞれ、左右被覆体 2 4 a、2 4 b の一つの係止溝 2 4 2 a、2 4 2 b 内に係止される。

【 0 0 1 9 】

本考案によれば、図 5 乃至図 7 に示すように、押圧係止棒 2 2 の押圧部 2 2 2 により、係止棒 2 2 は、結合体 2 1 の底部の収納溝 2 1 1 に位置する棒状部 2 2 3 を、支点として、所定の角度を回転すると、その底端の係止縁 2 2 5 が、左右被覆体 2 4 a、2 4 b の係止溝 2 4 2 a、2 4 2 b から脱離し、係止棒 2 2 が、上下に変位し、それに連動して、係止棒 2 2 に結合された結合体 2 1 やスリーブ 3 及び肘掛け上面板 1 が、ともに、上下に変位でき、必要とする位置に変位した後、係止棒 2 2 の押圧部 2 2 2 を離すと、係止棒 2 2 の押圧部 2 2 2 が、弾性素子 2 3 の回復力により、元の位置に戻り、同時に、係止棒 2 2 が、その棒状部 2 2 3 を支点として、元の位置に戻り、これにより、底端に設けてある係止縁 2 2 5 の両側が、再び、それぞれ、左右被覆体 2 4 a、2 4 b の係止溝 2 4 2 a、2 4 2 b に係止され、肘掛け上面板 1 とスリーブ 3 が、調整された位置に固定される。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 2 0 】

【 図 1 】 本考案の一実施形態による椅子肘掛け昇降構造の斜視図である。

【 図 2 】 本考案の一実施形態による椅子肘掛け昇降構造（一）の分解斜視図である。

【 図 3 】 本考案の一実施形態による椅子肘掛け昇降構造（二）の分解斜視図である。

【 図 4 】 図 1 に示す本考案の椅子肘掛け昇降構造の 4 - 4 断面図である。

【 図 5 】 図 1 に示す本考案の椅子肘掛け昇降構造の 4 - 4 断面作動概念図である。

【 図 6 】 本考案の一実施形態による椅子肘掛け昇降構造（一）の作動状態を示す一部分解斜視図である。

【 図 7 】 本考案の一実施形態による椅子肘掛け昇降構造（二）の作動状態を示す一部分解斜視図である。

【 符号の説明 】

【 0 0 2 1 】

1 肘掛け上面板
1 0 螺旋溝
2 昇降構造
2 1 結合体
2 1 0 貫通孔

10

20

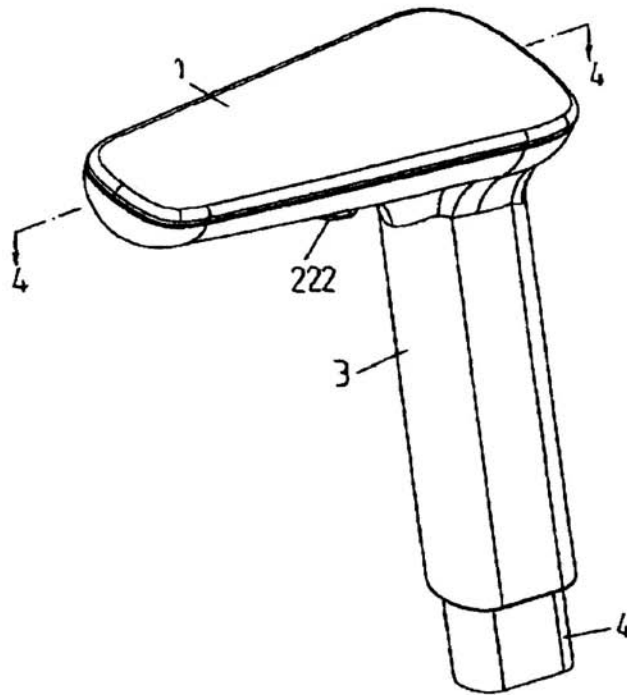
30

40

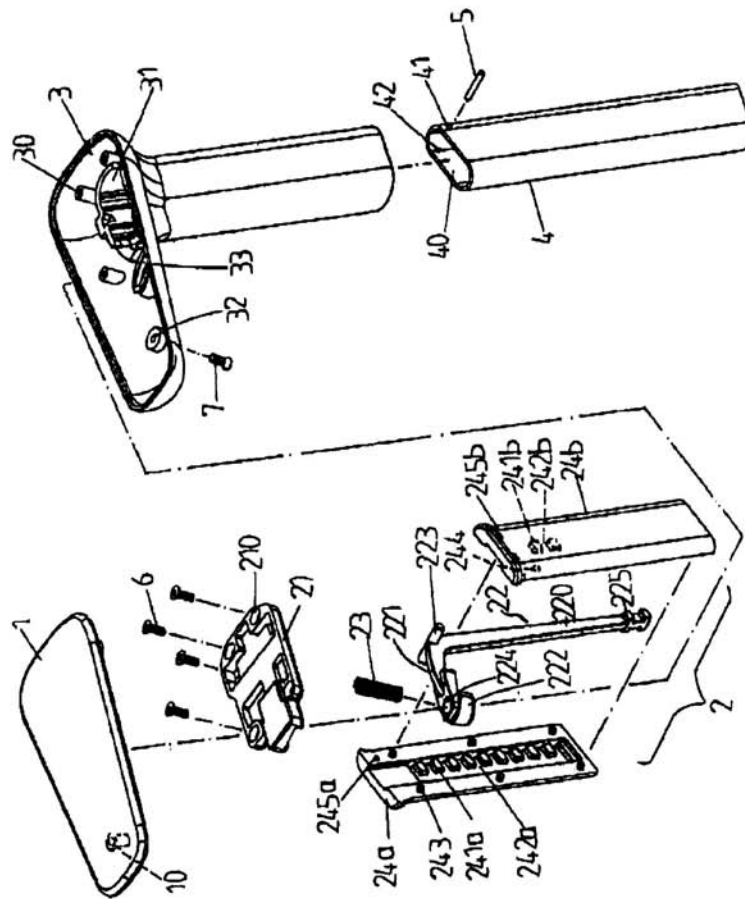
50

2 1 1	収納溝	
2 2	係止棒	
2 2 0	主体	
2 2 1	円弧面	
2 2 2	押圧部	
2 2 3	棒状部	
2 2 4	円状溝	
2 2 5	係止縁	
2 3	弾性素子	
2 4 a	左被覆体	10
2 4 b	右被覆体	
2 4 1 a	凸縁	
2 4 1 b	凸縁	
2 4 2 a	係止溝	
2 4 2 b	係止溝	
2 4 3	円形棒	
2 4 4	円状溝	
2 4 5 a	ピン孔	
2 4 5 b	ピン孔	
3	スリーブ	20
3 0	螺旋溝	
3 1	中空部	
3 2	貫通孔	
3 3	受け入れ孔	
4	肘掛けフレーム	
4 0	中空部	
4 1	ピン孔	
4 2	ピン孔	
5	ピン	
6	ネジ	30
7	ネジ	

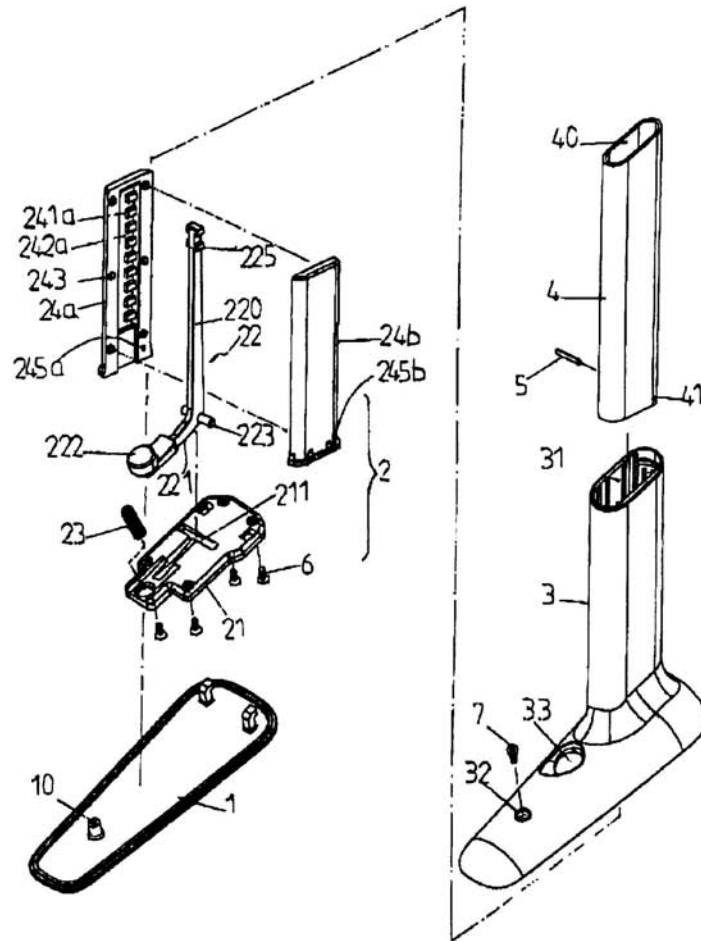
【図 1】



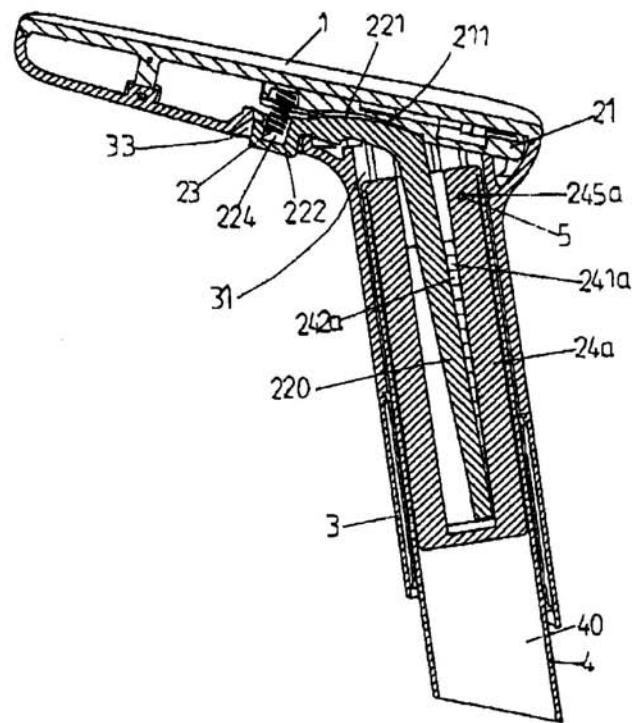
【図 2】



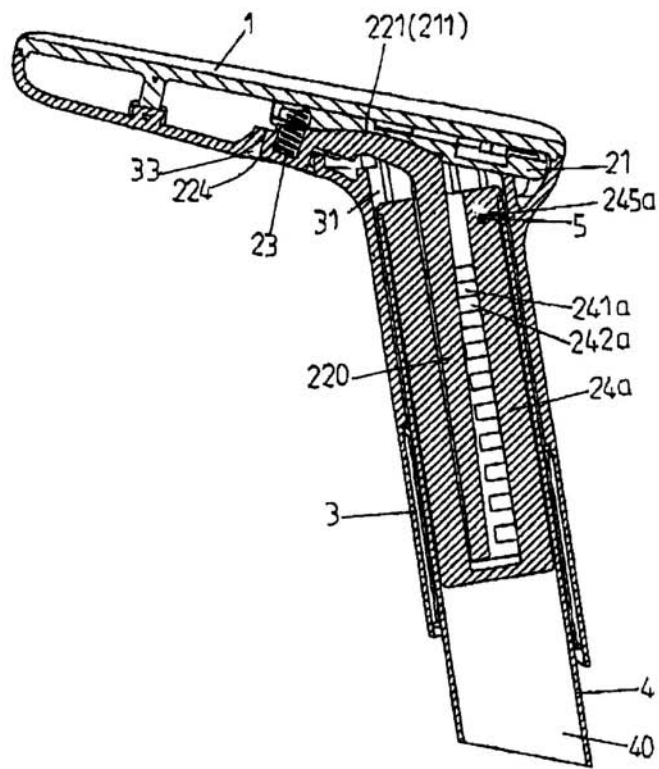
【図 3】



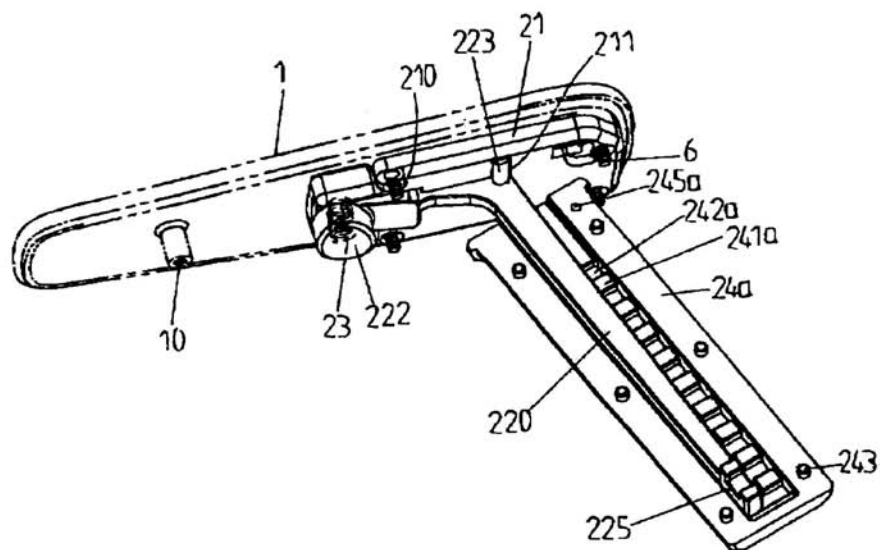
【 図 4 】



【図 5】



【 図 6 】



【 図 7 】

